北から南から

地域で育つ「助ける人」

東京都港区立港南中学校
校長　佐々木　希久子

1 はじめに

品川駅、田町駅にほど近い我がまち、芝浦港南地区（東京都港区）は、高浜運河など、張り巡らされた運河と林立するタワーマンションに象徴される大規模集合住宅地域です。

芝浦港南地区は 15 歳から 64 歳までの生産年齢人口が地域の全人口の約 7 割を占めています。そのため、首都直下地震等の大規模災害が日中に発生した場合には、生産年齢者が不在の中、中学生こそが地域の担い手となり、「自分たちのまちは自分たちで守る」という意識をもって活動できることがとても大切なことになります。

このような意識を子どもたちに育成しながら 10 年近く取り組んでまいりました本校の防災教育が皆様から認められ、平成 31 年 3 月に、栄えある「第 23 回防災まちづくり大賞（主催：総務省消防庁　共催：一般財団法人日本防火・防災協会）」の「日本防火・防災協会長賞」を受賞いたしました。

港区総合防災訓練

2 港区総合防災訓練

本校では、平成 21 年に「港区総合防災訓練」で、自治会、港区、事業所、教育機関等で防災活動を連携して行っている港南防災ネットワークと当校生徒とが連携した避難所運営訓練を試験的に実施し、その取組の様子が高く評価されました。

その成果を受け、平成 22 年からは、生徒の防災意識を高め、災害発生時に地域の担い手となって活動できる人材の育成を目的として、港区芝浦港南総合支所や港南防

簡易担架訓練

給水訓練

災ネットワークとの連携をさらに深めながら、毎年11月に実施されている港区総合防災訓練で本校の全生徒が指導者となり、小学生を含めた地域住人の約3,000人に対し、ＡＥＤを初め、応急手当・給水、初期消火、炊き出し・配給など、中学生が各種訓練の概要説明や、実際にやって見せることを、地域の方々や小学生に対して行っています。この港区総合防災訓練は、中学生に防災に関する知識と技術が身に付くだけでなく、共に活動することで港南防災ネットワークの方々をはじめとした地域の方との触れ合いを通じて、普段の生活の中でも地域の方々とあいさつを交わしたり、話す機会が増えたりなど横のつながりができるという大きな成果があります。「自分たちのまちは自分たちで守る」ためには夜間や休日等、教師がいない環境でも地域の方々と協力してスムーズに活動を行えることが大切なのです。まさに、総合防災訓練での活動は、一人ひとりの生徒が、「中学生でも地域に貢献できるんだ」という自信を付けさせる、万一、災害が起きた際には、自分の身に付けたことを生かせるという心を育てるにのに本当に良い機会となっています。

この港区総合防災訓練の実施を１つの目標として、夏休みに希望者による１泊の避難所運営宿泊訓練、９月の全校生徒によるプレ防災訓練もあわせて実施しています。

3 防災まち歩き

芝浦港南地区は運河に囲まれているところから、大災害発生の際には建物の倒壊やライフラインの切断に加え、津波等の被害も考えられます。本校に入学した１年生は、港南防災ネットワークの方々を講師に、春はまちを水辺から見る運河クルーズを、冬は陸上から見る防災まち歩きを実施します。

生徒は、地域の防災施設についてフィールドワークを通し、水辺からと陸上からの２つの視点で地域の防災に関する特徴を学んでいくのです。

防災まち歩き

運河クルーズ

4 「自助」そして、助ける人へ

大きな災害が起きてしまったら、最も大切なことは「自分の命は自分で守る」ことです。そのためには紙上での知識の吸収だけでなく、実際に動いて、率先避難者となること、決して諦めずに自ら考え最善を尽くすことが重要です。いざというとき、身体が動くこと、どこに何があるか分かること、消火の仕方や応急処置の仕方が分かることは生きるために必要なことです。これらの日ごろの訓練が生徒と地域の方々をつなぎ、生徒が自らを助ける人、他者を助ける人に成長させてくれるのだと思っています。